

登録コード	E8246300	開講年度	2026			
授業科目	倫理学演習				担当教員	松島 恒熙
英文授業名	Seminar in Ethics II				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生
講義室	教育M301講義室	授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観			外国語文献の大意を把握することができる。 把握した大意をもとに、他者と議論することができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			自分の研究内容や意見について、教育現場での対話型授業を意識しながら、他者に分かりやすく発表することができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働、キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	この授業では、第7回まで倫理学に関する英語文献を読解し、論点を整理しながら哲学的に議論する。指定された範囲を読解し、論点を整理する。さらに、読解した内容について哲学的に議論する。各回、レジュメ担当者を決め、そのレジュメに沿って進行する。 第8回からは、各自の問題関心に沿った倫理学や教育学の文献を読み、論点や見解を発表してもらう。その後、発表内容に応じた議論を全員で行う。					
(5)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：文献読解と議論（Martin Heidegger）「question of being」 第3回：文献読解と議論（Martin Heidegger）「they」 第4回：文献読解と議論（Martin Heidegger）「being-towards-death」 第5回：文献読解と議論（Bertrand Russell）「work」 第6回：文献読解と議論（Bertrand Russell）「envy」 第7回：文献読解と議論（Bertrand Russell）「fatigue」 第8回：研究発表と議論（1）身近な倫理学 2年生 第9回：研究発表と議論（2）身近な倫理学 3年生 第10回：研究発表と議論（3）身近な倫理学 4年生 第11回：研究発表と議論（4）教育と倫理学 2年生 第12回：研究発表と議論（5）教育と倫理学 3年生 第13回：研究発表と議論（6）教育と倫理学 4年生 第14回：授業のまとめ（授業アンケート） 教育実習等での欠席者に対しては、適宜課題等での補講を実施する。					
(6)成績評価の方法	達成目標 についてレジュメ発表（40％）で評価する。達成目標 について議論への積極的参加（20％）で評価する。達成目標 について研究発表（40％）で評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	上記の、レジュメ発表、議論への積極的参加、研究発表について 問題の設定が適切である。 問題の背景を適切に理解し説明できる。 その問題にどのような課題があるのかを指摘できている。 それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている。 その上で自分の見解を創造的に提示できている。 5項目すべて優れていれば「卓越している」。 5項目を満たしていれば「かなり上にある」。 4項目まで満たしていれば「やや上にある」。 3項目まで到達していれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	・次回分の文献範囲は、読んで予習をしておくこと。 ・授業で扱われたテーマに関して、学習仲間と自発的な議論を行い、理解を深めておく。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。					
(9)履修上の注意	・外国語が苦手であっても、ゆっくり解説するので問題ありません。 ・一緒に哲学しましょう。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業の前後やオフィスアワーにて対応する。matsuko@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	参考資料を配布します。					

【参考文献】	適宜紹介します。
--------	----------